

# 自然の素晴らしさを求めて



本郷 林 和子

日本の四季には、それぞれにすばらしいものがあります。春「山笑う」、夏「山萌える」、秋「山華やぐ」、冬「山眠る」と表現されるように、多くの表情を見せてくれます。自然の中を歩いていると四季折々の美しさがあり、心がいやされます。若い頃は、会社の山仲間とテントや食糧を背負って多くの山頂を目指して歩きました。空を真っ赤に染めて山に沈む夕日、太陽の光を受けて色とりどりに輝く黒部溪谷の紅葉、時には突風に吹き飛ばされそうになり、ハイマツにしがみつき、必死に歩いた笠ヶ岳、山の夜の大きくまたたく星、山と自然と仲間と共に楽しい青春を過ごしました。

数年前からは、同好会に入り先生の指導のもと、自然や国宝、県宝の神社仏閣を訪ねたり、希少な動植物・昆虫・鳥、仏像・建築などを教えていただいております。秋の晴れた日に、光を受けスーツと伸びるクモの巣立ちの糸（クモの子どもが自分の出した糸につかまって旅立っていく）や、成虫が葉の中に卵を産み付け、人間が包んだように葉をたたみ春を待つオトシブミ、一時間しか咲かないススキの花を見ることができたことなど、たくさん発見がありました。古代より子孫繁栄の守り神らしい男女倉の男岩、女岩を探し、道のミステリーツアーでは、道なき道を歩いたこともありました。また、十六年しか使われなかつた「初期中山道」（木曾の桜

# 造化の妙に魅せられて



東山田 石川 勝三

「マムシグサは性転換しますよ」と言うと、一瞬、何を言っているのかとげげんな顔つきでじつと見る。自然探訪の会の例会での一コマ。無性・雄性・雌性と個体は変わる。そして、雄株・雌株の花構造の違いと受粉のしくみを、現物を見ながら触って、違いを感得してもらう。「へーそうか」と納得したような顔々。

## 六十歳にして植物世界へ

幼少時に庭先で、今という我流ガーデニングを楽しんでから、学生・社会人として半世紀過ぎ、六十歳にして植物世界にのめり込んでいった。最初は、自然の息吹を感じ包み込まれる満足感に浸るような

山歩きであった。光・風・木々・花々が、季節の移ろいを川の流れに乗せてくれる。満足。そのうちに花の名前を覚えること以上に、知りたいことが山と出てきた。なぜ、どうして、この植生は。子孫・種子をどう受精し、どう散布し、花粉媒介者をどうひきつけ、どう進化してきたか。

## 虫の目、鳥の目で見ると

そこから自ら動けない植物の造化の妙に魅惑され、時間があれば山々を涉猟し、仲間と定点観察を継続し、図書館・インターネットも多用した。そんな記録、資料、写真も山積してきた。良く言えば知的好奇心をくすぐられ、門外漢ながら次々に生じる疑問に、そういうことかと得心する事々々。



ウメバチソウ（ユキノシタ科）

黄色い水滴をつけたようなものは仮雄しべ。蜜が出るように見せかけて、花粉を運んでもらうため、昆虫をおびき寄せるしくみになっている。

まだまだ知見できないことが山ほどあるが、あまたの植物も長い長い進化の中で今ここで対面し、虫の目、鳥の目で見やると、表面の姿形の美しさだけでなく、よくぞその命を永らえてきたといとおしくなる。

高山の砂礫地のコマクサが逆境下にあつても可憐に咲き誇るように、あまたの草木はあらゆる環境に順応し、その営みの中で生命を育み、次世代を確実に残し、そのためのからくりを生み出している。

## 自然があるがままに知る

人の生活パターンも変わり、里山も活用されず、休耕田も広がり、身近な自然も荒れるに任されている。この一月末、ササユリ保護回復事業研修会があった。このような希少野生動物植物保護活動が全国的に広がっているのは、高原や山々が人為で変化している身近な事例からもうなずける。

地球環境保護保全の目も大事な使命であるが、足元の身近な自然があるがままに知り、「じつと見る。花のことは花に聞け」の姿勢で、自然に親しんでいきたいものだ。

## 七月のこね

子供達が小学生だった頃、夏休みに入ると、新潟県に海水浴に行くことが家族の定例行事である時期があった。

その道中は、普段とは違った山並みを見ながら、日本昔ばなしに出てくる鬼の話をしたり、史跡に寄つたりと楽しい時を過ごした。

沢々小野宿々三沢々下諏訪を三回に分け、昔の人の気持ちで歩きました。いつの時も目に留まる植物、蝶、トンボ、ヘビ、昆虫などを捕まえての先生の自然談義があり、帰路には頭の中は新しいことで満杯です。次の観察会になると、いつものことながら、先生からの「何回教えりや覚えるだ」と言う声の頭の上を通っていきます。

でも、夏休みの終わりの二日くらいは、自由研究・宿題の追い込みで大変であった。休みの初期は比較的計画通りこなしていくが、興味のあることに集中してしまい宿題などを先送りし、気がつけば休みは終わりに近づいているというのが、我が家のパターンである。親も子も。

悪い習性であるが、遺伝したらしい。これが孫に伝わらぬよう、今年初めて夏休みを迎える孫に対策を考えたが、二三日毎にチェックを入れるくらいしか、決定的な妙薬が浮かばない。翻つて、日本の課題を考えれば、あれもこれも先送り。孫たちに、先の明るい世を残したいのだが。（橋爪）



男女倉山の男岩（長和町）